

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人としての運営理念があり、昨年からホーム独自の指針を定め文章化している。</p> <p style="text-align: center;">○</p>	<p>地域交流をしていき、そのもとにサービスの展開を行っていきます。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>積極的に職員間でミーティングを行い、理念の共有化や実践に向けて取り組んでいます。</p> <p style="text-align: center;">○</p>	<p>新しく入ってくる職員に対しても運営理念を伝え共有して行きます。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営理念は玄関先に掲示して、ご家族の方、来客の方に見ていただけるようにしています。</p> <p style="text-align: center;">○</p>	<p>理念をもとに、ホーム側からも、理解して頂けるよう声かけをしていきたいと思っています。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>挨拶をしっかり行っていき、入所の方と近所の散歩などを行っています。</p> <p style="text-align: center;">○</p>	<p>もう少しホームに足を運んでいただけるような工夫ができればと思っています。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>行事の時など、地域の方に来ていただき、踊りをしていたりしています。</p> <p style="text-align: center;">○</p>	<p>入所の方が外に出て何かに参加される事があまり無いのでそういった機会を増やして行きます。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「障害老人を支える会」で職員側の体験談等話す機会を積極的に発言するよう努めています。	○	こういった会は継続して参加しなければと思っています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員ミーディングにおいて評価の意義を確認しながら自己評価をしています。外部評価の結果においては、ミーディングにて話し合いを行っています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度、民生委員・総合福祉課担当者、家族会代表者、広域連合の方など交えて連絡協議会として開催し、参加者の方から多くのアドバイスをいただきサービスの向上に努めています。	○	入所の方の状況報告などを継続していきたいです。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議における、町担当者さんとの関わりや、介護相談員さんの来苑時に情報交換を行い、連携に努めています。	○	もう少しアドバイスをもらえるよう、スタッフ側からも話しかけていけたらと思っています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会において権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会がある。	○	研修会后、スタッフへの伝達会などを通じて、多くの職員が理解できるよう努めていきます。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のミーティングを行ったりスタッフルームへの張り紙をし、日々虐待防止に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には重要事項説明書を基に説明し、ホームでの生活においても見学をして頂き、疑問点も尋ねています。	○	契約をしていただく際、不安に思っておられることなど、しっかりとした説明を続けていきたいと思っています。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフと普段の会話の中でも意見、不満、苦情などを聞き運営に反映できるよう取り組んだり、広域連合相談員様、月2回の来苑時などでも意見を頂いている。	○	自分の意見が言えない方に対してどういった対応をしていくか、利用者の方の思いをくみとる事ができるかが課題だと思っています。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1カ月に一度近況報告にて、状態報告を行ったり、急な場合は電話して報告をしています。	○	家族様との連携、報告を常にしていけたらと思います。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情の受付窓口の案内を玄関に掲示しサービス担当者会議においても意見をうかがい、サービスへつなげています。	○	各会議においても、家族様がもっと意見を言って頂ける場を作っていけたらと思います。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング以外でも運営者、管理者は意見などを聞き、関係者と協議し反映できる体制を整えている。	○	職員の個別面接等、機会を設けて多くの意見などが反映されていけたらと思います。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様の生活の流れにあった勤務調整をしている。	○	これまでも何度か勤務形態変更をしているが、今後もその時にあった形態を作っていけるよう努めたいと思っています。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職休職(今年度2名復職)移動等あったが、その都度利用者様へ説明を行う他、家族様へもその旨と近況報告書へ書き添えるなどし、理解して頂けるよう努めている。	○	系列の特養より人材支援等比較的速やかに行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人内研修の他状況に応じ、当ホーム内にて勉強会を実施している。また順次外部研修に参加し、職員ミーティングの場にて報告伝達している。	○ 系列のリハビリセンターの療法士を招く等して必要に応じて勉強会を開き、主に介護技術や知識を学ぶ機会を持つようにしたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会が主催する年1回の相互研修会の他、外部研修へ参加する事で同業者とのネットワーク作りに取り組んでいる。	○ 相互研修等を通じて出会う同業者とのつながりを大切に、連絡をとりあいながら、相互訪問などへ発展する事ができればと思う。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務上の不安、負担等を職員同士が気兼ねなく話せるような環境であることを目差している。職員親睦会や研修旅行などの場がストレス軽減につながっている。	○ 職員が働きやすく、満足度が上がるような環境改善や個人に対する配慮がなされたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定例ミーティング等を通じ、運営者と職員が話しあい、意見交換を行う他、運営者から管理者、職員へのアドバイスの場でもある。	○ 達成感や他者から評価が得られる事のあらゆる面においてモチベーションをあげる為の取り組みが必要である。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム管理者、ケアマネジャーと併設施設の生活相談員とで、本人さんの所へ出向き、アセスメントを実施する他、事前ホーム見学の際にも職員と話し合い、信頼関係の構築に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族様ともしっかり情報交換を行い、日頃の支援内容等についても家族様の要望に耳を傾けるようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に対し、ホーム職員・ホームケアマネ、及び必要に応じて併設施設の生活相談員による対応で適切な支援が出来るよう努めている。	○	相談援助実務経験職員が少なく、まだ未熟であり、多くの職員は相談援助技術を学んでおらず、へ併設施設との連携を図りながらホーム職員が学んで行かなければと思う。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規申し込みの方にはホームの見学を勧め案内説明を行いながら、場の雰囲気を感じたり、サービスについて理解して頂けるよう努めている。	○	利用に際し安心して納得していただけるまで何度でも相談や見学に来て頂けるような環境作り、働きかけが出来たらと思う。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者様にサービスを提供させて頂いている気持ちを忘れず、利用者様と共に過ごし、学びそして支えあう姿勢であるよう心がけている。	○	系列施設との合同ミーティングなどの場においても利用者様がいての私達である事を皆で再認識している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や緊急連絡で電話した際、必要事項だけでなく、共通理解を深めていける様、話し合いの時をもつようにしている(主に担当職員を決めて対応している)	○	家族さん参加型の行事を増やすようにしている、家族さんも訪問しやすいホームとし、利用者さんとの大切なひと時を過ごして頂ける様なホームにして行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	コミュニケーションが困難になっていく利用者さんや認知症が進行している利用者様などでも家族さまとの関係を大切に、より良い関係が保てるよう努めている。	○	利用者様の状況、願い事等家族様へ説明し少しでも多く理解して頂、利用者様にも家族様にも生活の励みになっていく様な支援に努めたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係は主に面会者となっている、個々の外出支援により、近隣へのドライブ等を行っている。	○	家族様の支援を得る等して、自宅やなじみの場所への訪問等が少しずつ増えていくようにしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者さん個々の性格、利用者様同士の関係を把握して食堂の席を決めたり職員が間に入って和を保ちながら、関わりを作れるように心がけている。	○	軽度者が重度者の世話をしたり、お互い支えるような関係を作って行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設施設への転所となったり、入院されたり利用者様も面会や病院受診で出会った際にも積極的にコミュニケーションを図っている。	○	併設施設へは、利用者様もいっしょに気分転換がてら面会支援等を進めている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、ケアプラン作成時に格段投資や様やご家族様の希望を聞きケアプラン等に取り入れている。希望があればその都度対応している。	○	健康面において、制限がある利用者様もおられるので、制限があっても利用者様に納得して頂けるようなケアを提供して行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方に聞いたり記録書を見たりとできる限り全利用者様の今までの生活歴を把握するよう心がけている。	○	各担当者を中心として、把握に努め職員間で共有し、利用者様の望む暮らしを提供したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各担当スタッフによる短期間でのアセスメント表、日課表の見直し作成を行い日々の過ごし方も、見守り等で現状を把握する様に努めている。	○	暮らしの視点が利用者様の視点になるよう、全職員で心がけて行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様や家族様にも事前にケアに対しての希望などを聞き、それを取り入れた介護計画作成を行っている。	○	不参加の家族様にも事前にレ連絡をし意見や希望を取り入れている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画で設定した期間での見直し新たな作成は行えたが、変化に伴う計画の変更が不十分であり、月1回はモニタリング、実施記録時計画変更の必要性を確認し必要であれば、見直し当、実施する事を職員に周知したが、変化に追いついていないのが現状である。	○	介護計画と実際の介護との連動性に着目していかなければと感じている。介護計画に関して事業所ないでの学習のほか今後法人研修も予定されており、介護計画の必要性を認識しながら計画作成、見直しに取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にその日の出来事や様子などを食事・排泄・入浴・バイタルの記録を併せて記入している。受診(往診)やリハビリ特変事項等医療面については、別冊の介護相談へ記入し、情報を共有している。	○	昨年より申し送り時間短縮化(直接介護業務時間への充当)を実践しており記録の重要性がさらに高まったと感じている。記録漏れをしない事を第一に日々の様子、気づき等記録を残し介護計画策定へつなげる流れをもっと確立して行かなければと思う。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームと同法人の特養ホーム、居宅介護支援事業所や系列の老人保健施設、病院と連携をとり協力を頂いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホーム近くに警察・消防がありれんらく体制を整えている他ボランティアの受け入れや役場老人クラブとも連携を頂いており、協力を頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者様の状況、要望に応じて同法人系列施設とまずは連携を取り合い、必要と思われるサービスへとつなぐ事ができるよう支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	施設の居宅介護支援事業所との連携が中心となりがちであり、地域包括支援センターとの関わりが、まめに取れていないのが状況である。	○	利用者様の意向・必要に応じてすぐ地域包括支援センターと協働出来るように日ごろから関わりを持つようにしたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に併設の医療機関での受診や往診あるが、本人様・家族様の希望に応じて他の医療機関であっても受診できるよう体制を整えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	当ホームに看護職員の配置が無く、健康管理の面で不安を抱えている現状もあり、併設病院の看護師さんに指導を頂いている。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	利用者が入院された際職員が自主的にお見舞いとして入院先へ行っており、その際病院関係者との情報交換に努めているが、ホームとして医療機関との連携をこれからも構築して行かなければと思う。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	重度化や終末期への対応については、内外での研修当においても学ぶ機会があるが、スタッフ個々の意識そしてち一家でのケア向上へと発展していける様取り組みたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	いつ利用者様に変化が起こりうるかは分からないので、すぐにホームにおいても対応が行えるよう、主治医との連携を中心に体制を整えておきたいと考える。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	今後本人様が安心して生活していただけるような、話し合いやサポートを続けて生きていきたいと思っています。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人策定の個人情報保護マニュアルを基に記録等の取り扱いに注意をはらっている。プライバシーに関しては、利用者様の心を傷つけるような対応や声かけをしないよう心がけています。	○ 利用者様は、私達の人生の先輩でもあり、常に尊敬の気持ちをもって日々の仕事を行っていきたいと思っています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活のなかで、利用者さまとの関わりを確りととり、希望などを聞くようにしている。希望を表すことが困難な方においても日々の表情などから受止められるように努めています。	○ 担当者ごとにも利用者様一人一人の思いや希望を確り受止められる態勢が作っていければ、良いホームにしているのではないかと思います。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者からの希望があれば外出支援を行っているが、一定の人への支援に偏りがちになってしまっている。	○ 自分から希望など言えない方に対しても巣タツプが声かけを行い一定の人だけでなく皆様に同じようなケアが行えればと思っています。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	現時点では併設される特養へ月1回散発へいかれている方がほとんどですが、髪型などは本人様の希望を取り入れて切ってもらっています。	○ 行きつけて美容室へなるべく多くの人に行っていただけるよう努力、支援していきたいと思っています。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の厨房より毎食が届く為、盛り付けや時々行う、調理で利用者様とともに行うようにしている。片づけではほとんどが職員中心となっているのが現状である。	○ 現在月1回の調理レク、毎週日曜日の味噌汁作りと包丁等を持つ機会が少ないので、増やしていけたらと思う。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者様、皆様が嗜好の支援を全て受けている訳ではないが、食事や糖分制限に配慮しつつ、利用者様と共に考えて支援している。	○ 利用者様の要望にしっかり耳を傾け状況に合わせて楽しんで頂ける事を一番に考えた支援を行いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来る限り誘導で排泄していただけるような声かけを行い、職員同士でも情報を共有し介護計画書作成の段階でも把握に努めている。	○	水分、排泄チェック表にて日々の状況、情報収集に努めている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日回数は職員側で決めているのが現状だが、利用者の要望等に耳を傾けて入浴を楽しんで頂けるよう努めている。	○	利用者様の要望に応じ時間に配慮したり、夜間浴を取り入れるなどしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日常生活内容を工夫したり、利用者様の状況で入眠時間等工夫している、日中に日光浴へ出来る限り参加して頂き、軽作業をして頂くようにしている。	○	出来る限り前薬等に頼らず、自然入眠を促せるような支援を行いたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活のなかで、役割等の場面を作り出し職員と一緒に 行う事で、生活の張り合いを支援している。	○	もっと多くの利用者様の生活歴を知り、個々の支援につなげて行けたらと思う。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家人様と相談し、保管はホーム側で行っているが、外出時の買い物等では、利用者様本人が支払い動作等を行えるように見守り支援を行っている。	○	毎週土曜日の訪問パン屋さんでの買い物や、近所のスーパー等での買い物へ積極的に出かけ品物を選ぶ事から、支払いまでの支援を継続したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人様の要望にその都度対応している、高くのスーパーであったり、自宅であったりと希望を声に出して頂くようつとめている。	○	現在、希望を言える利用者様への支援に偏っているのでは、会話の中から、行きたい所が分かるような支援を行いたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常の会話の中で、思い出の場所や季節に応じた場所へバス等での外出支援を行っている。	○	まだまだ、大きな目的を持った外出計画が少ないので、楽しみの目的を含めた外出支援を増やしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂へ公衆電話の設置をし何時でも使用して頂けるようにしたり、容貌があれば、手紙の代筆や電話を掛ける支援を行っている。	○	手紙の代筆等は減少しつつあるのが現状なので、家人様等に手紙を書く支援等を検討して行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者に対し職員側から声かけを確り行い、いつでも気軽に訪問して頂けるよう支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や内部研修の中で勉強の機会を与え常にケアを考える上で頭に入れて取り組んでいる。	○	外部研修・内部研修、で学んだ事をもっと詳しく全体ミーティング等に勉強して行きたと考えます。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、正門共に開放しており自由に出入りしていただけるようにしているが夜間は防犯、安全の為に施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中に見守り付き添い声かけなどを行い、夜間は利用者様の状態確認の為適宜訪室をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類などは、基本的にはスタッフが確認し管理を行っている、個人で持っておられる物に関してはスタッフが注意しながらなるべく本人に持っていただけるようにしている。	○	刃物等はとても危険な為、個人で持っておられる方に対して、状態に応じた安全への声かけを今後行って行きます。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	参考書を読んだり、ミーティング時の話し合いの中で事故防止に向けた知識を学んでいます、日頃から利用者様の状態に応じた対応の改善が必要に思います。	○	事故発生後、再発予防の面では取り組みが出来ているが、予防策の面では、今後も取り組む必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	併設の病院と連携し、緊急時は主治医の支持の下対応を行っている、急変時の対応マニュアルを参照に個々ではありますが勉強を行っている。	○	急変時にすばやく対応できるよう、今後も起こりうる危険についても学んでいきます。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練実施の他、法人での緊急時応援体制・連結体制があり又スタッフルームに災害時対応に関する指示を行っている。	○	昨年度より、洪水予報・土砂災害警戒情報発令時への、対応訓練を実施している。今後、地域の方々にも協力していただけるよう働きかけをしていきたいと考えている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	サービス担当者会議の場を主に、リスクについて面会時などでも家族様と話し合いを行い、利用者様本人の状態を踏まえた対応を行っている。	○	日頃から利用者様の日常生活において、起こりうるリスクをとらえ認識し、家族様への説明を行っていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃から利用者様の状態変化や訴えなどを見極め、併設病院へ連絡の他、スタッフ同士介護日誌へ記入し、情報の共有に努めている。	○	ちょっとした変化でも全スタッフが情報を共有出来るように今後も努めていきます。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診時はスタッフが付き添い主治医からの説明を聞き本人にも分かりやすいように説明する、内服薬は処方箋を参考にしています。	○	併設されている病院の下、内服管理を行っており、今後も確りとした内服管理を行っていきます。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食時の牛乳を冷たい物にしたり、個々でカスピ海ヨーグルトを食べて頂いている他ヶ外気浴にあたっていただいたり、パタカラ体操をしていただいたりしている。	○	飲食物の工夫や身体などを動かしていただくなど、対応をとっても排便がない場合は、座薬や浣腸を行っているのでその際は確実に行って行きたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行い、歯科医院の往診がある時など、口腔ケアに関して困っていることは相談するようにしている。	○	口腔内の清掃をご自分で行っておられる方の磨き残しのチェックがあまり出来ていないので、そういった利用者様の口腔内確認を今後行って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや食事の量に関しては管理栄養士が主となり管理されています、食事や水分を摂取していただけるよう声かけをし、記録するようにしている。	○ 夏季は特に脱水症状になる恐れがあるため、水分を摂取して頂けるよう、全スタッフが確認、声かけを行い、体調不良の方がでないよう支援していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策委員会を設置し、併設されている施設と連携しながら月に一回ミーティングを行い予防や対応の取決め等の共有をしている。その他にも主治医かこの指導や講習なども行っている。	○ 全ての病気に対して常に危機意識を持って予防に努めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫内の物や家族様からの差し入れは常時確認を行っている。ホーム内で使用した調理用具などは使い終わったらすぐに洗うなど食中毒予防に努めている。	○ 利用者様に調理を手伝っていただく際には、しっかり手洗いをし頂き、手の消毒をしていただいているので、今後も続けていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中はどなたでも出入りして頂ける様にシャッターや玄関は開けています。見た目においても入っていただきやすいよう、花などを植えるなど工夫しています。	○ 近隣の人たちがホームに足を運ばれるという事があまり見られないので、なるべく多くのひとに来て頂けるようなホーム作りをしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂などには花を生けたり、新聞や本をおくなどしているが、トイレや浴室においては施設感があるように感じる。	○ 共用空間という場所なので、利用者様の意見を取り入れながら、居心地の良い空間を作っていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をされる席において、気のあった方同士同じテーブルにしたりソファーなど休んでいただける席の配置の工夫を行っている。	○ テーブルの配置など何度も行っているが、今後も必要に応じて、よりよい空間が作っていけるようつとめていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	相談しながら、仏壇や使い慣れた家具、なじみの装飾物などを持ち込んで頂いているが、持込の無い居室で過ごしている方もおられる。ペットの位置や高さ等は利用者様の状態に合わせて相談しながら工夫している。	○	持ち込みの少ない、または無い場合はご家族様も含めて行われるサービス担当者会議等でその地の歴史や好みをもっと聞きだし、居心地良く過せる空間を作る為、私物の持込を呼びかける。職員側も協力する。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレ・居間・居室を定期的に換気し、ハイター、モップ等で掃除し臭いの無い様つとめている。風呂・廊下等に温度計を設置しこまめにチェックし、温度調整をしている。各居室の温度管理は一人一人に確認し、個別に対応している。	○	細かくチェックし、快適に過して頂くよう努力しているが、まだ苦情の声もあり、朝晩の気温の変化にもすばやく対応出来るよう、利用者様の立場に立ってつとめる。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレには手すりが設置されており、使用される方の状況に応じて追加設置を行う事もしている。	○	利用者様の身体機能ADLを良く観察し、状態の変化と共にその都度、環境作りに取り組む。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様が「出来る」「したい」と思われることを見守り、それとなくフォローする事で自信を持って頂ける様心がけている。	○	自分に自信を持つ事で、精神的に安定し生活全般に意欲が出るよう、利用者様一人一人にあった提案をしていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物外の畑や藤棚にはベンチ・テーブルを設置し気の合う方とお茶を飲んだり談話して過せるようにしている。居室前のスペースは花を育てられたり、草抜きをしておられる、リビングへ続くウッドデッキでは犬を飼っており、皆可愛がっている。	○	畑での農作業、花の手入れ等、利用者様の生活の中にも楽しめる活動として、引き続き支援していく。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員一同、まだまだ勉強不足で、利用者の方へ満足していく生活を提供できていないのが現状ですが、それぞれに残された力を活かせる様、個別ケアに向け、職員・併設施設の機能訓練し、言語作業療法士、栄養士、協力医療機関の医師、ナース、歯科医師、衛生士等と介護分野から医療分野まで幅広く相談助言を受けながらケアの取り組みが来ています。自然に囲まれており、庭では畑を作り作物の生長を見守り、皆で収穫の喜びを共にしています。近頃では少しずつですが利用者様の地域参加も増え、同町のボランティアの方に踊りの会を開いていただいたり、大正琴の得意な利用者と一緒に練習する機会を設けて頂いたりしています。地域への参加は今後も大きな課題で、積極的に取り組んで行きたいと思っております。